

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2011	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科
科目名称 [英語名称]	植物生態学 [Plant Ecology]				
科目コード	234600	単位数	2	配当学年	2年次
教員氏名	河野 耕三				
授業概要	<p>最近、植物生態学は地球環境問題を考える上での要のエコロジーとしてますます注目されている。ここでは造園分野や園芸分野で対象とする植物と環境・生活との関係について、植物生態学上の知見を紹介しながらグローバルに考えていきたい。具体的には生態系や植生の構造・機能、その維持機構、物質循環、気候・環境や他の生物との関係等を中心に紹介しながら、植物生態系のメカニズムや人間と植物生態系との関わり等について学習する。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 植物生態学基礎1(植物と環境との関係) 2. 植物生態学基礎2(生態学の基礎及び応用分野) 3. 植物群集1(相観と環境区分、生活形、分布) 4. 植物群集2(植生帯と環境、自然植生、植物社会の構造と機能) 5. 植物群集3(植生帯と環境、代償植生、遷移) 6. 植物群集4(植物群集の遷移と仕組み、光合成、生産構造) 7. 植物群集5(生態系の物質・エネルギー収支) 8. 植物群集6(生態系における生物相互作用) 9. 植物個体群1(植物個体群と環境) 10. 植物個体群2(個体の成長、個体群の増加、減少・絶滅) 11. 植物個体群3(生存戦略、機能、社会構造) 12. 植物生態と造園(庭、公園内、街路樹等の植物とそれらが作る環境) 13. 植物生態と生物生産(農林業における生産と生物生産) 14. 植物的自然の保護(自然環境保全、自然公園、各種の自然保護) 15. 植物と自然 16. 定期試験 				
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 植物生態学で使われる代表的用語と概念、理論等を知り、植物の生態を巡る諸現象を多面的に理解する。 2. 植物と環境との関係を理解するために、細胞・個体・群集レベルから総合的に考える力を身につける。 3. 植物と人間との関係を植物生態学的な視点から考える力を身につける。 				
評価方法	筆記試験、授業への参加状況及び受講姿勢で総合的に評価				
テキスト	無し(毎回プリント配布)				
参考書	<p>植物生態学 基礎と応用(林一六 古今書院)、日本の植生(宮脇昭 学研)、森、その仕組みと働き(只木良也・赤井龍男 共立出版)、生態学入門(日本生態学会編)、植物生態の観察と研究(沼田真 東海大学出版会)、生態学キーノート(A.Mackenzie/A.S.Ball/S.r.Virdee 訳:岩城英夫 紀伊國屋書店)、植物群落とその生活(飯泉茂・菊池多賀夫 東海大学)、植物の個体群生態学(ジョナサン シルバータウン 訳:河野昭他 東海大学出版会)、最先端の緑化技術(亀山章他 ソフトサイエンス社)、生態学から見た身近な植物群落の保護(大澤雅彦 講談社サイエンティフィック)</p>				
備考					